

公共の電波を使い、テレビで誤情報を流した テレビ朝日吉野実氏に断固抗議する！

私たちは、復興庁パンフ『放射線のホント』や文科省の放射線副読本において、食品放射能基準値の誤った国際比較をもとに「日本は世界で最も厳しいレベルの基準」とウソ宣伝していることを指摘し、廃刊署名活動を展開してきました。

3月30日午前1時25分からテレビ朝日で放映された「朝まで生テレビ～原発と日本のエネルギー政策」において、テレビ朝日報道局原発担当の吉野実氏は出典も明らかにせず、下図左の表を示し、「飲料水中のセシウム137は、日本はヨーロッパやアメリカの100倍厳しい基準」と報告し、「基準を緩和すべき」との議論が3分超にわたって続きました。これは大問題です。

食品基準	日本の新規制値 (2012年4月~)	EU	IAEAの国際基本安全基準 (BSS)	国連の食品国際規格 (CODEX)	USA
飲料水	10	1000	1000	1000	1200
乳幼児食品	50	400	1000	1000	1200
牛乳、乳製品	50	1000	1000	1000	1200
一般食品	100	1250	1000	1000	1200

「平常」時 緊急時

(緑・赤枠、「平常」時、緊急時は当会が書き加えた)

日本	EU	USA
10	8.7	4.2

*日本は Bq/kg、EU・USA は Bq/リットル

EU	米国、中国、韓国など
輸入する日本産食品に日本と同じ基準を適用（汚染食品率想定が日本の5分の1なので、日本の5倍厳しい）	福島県産食品は基本的に輸入停止。近県産食品も輸入停止が多数

第1に上の比較表自体が間違っています。

吉野氏の表は、外国の基準値は事故直後の緊急時のゆるいものなのに、日本の値は福島原発事故翌年からの「平常」時の値です。緊急時の外国の値と「平常」時の日本の値を比べて、日本を厳しく見せるトリックです。

「平常」時の飲料水の基準値（右上の表）は、日本では10Bq/kg、EUは8.7Bq/l、アメリカは4.2Bq/lです。外国の方が厳しいのです（事故直後の日本と同様、セシウム134と137のベクレル比が同じ場合）。

さらに、飲料水以外の福島産食品なども、外国の方が厳しく規制しています（右下の表）。被ばくをできるだけ少なくするためです。

第2の問題点は「飲料水中のセシウム137は、日本はヨーロッパやアメリカの100倍厳しい基準」となった原因として、吉野氏が「暫定（規制値）が1年あたり5ミリシーベルトだったのを・・・時の厚労大臣が1ミリシーベルトに下げてしまって、それについては科学的な根拠はまったくなかったです」と述べたことです。

放射線被ばくをできるだけ少なくするのは、ICRP(国際放射線防護委員会)も認める放射線防護の基本です。1ミリシーベルトは住民の線量限度であり、誰も超えてはならない「国際基準」です。吉野実氏の発言は線量限度1ミリシーベルトを否定し、5ミリシーベルトを良しとするものです。

第3に、吉野氏の誤った情報が、「公器」とされるテレビを通じて全国に放映されました。食品基準値比較表の誤りは私たち市民団体でも気づくものです。吉野実氏はテレビ朝日報道局原発担当と称する以上、政府や放射線安全論者の言説にまどわされることなく、情報の信頼性を厳しくチェックした上で放映する責任を負っています。今回の吉野氏の言動はこの責任を放棄し、『放射線のホント』や放射線副読本の誤りをさらに増幅したものです。

以上に基づき、私たちは吉野実・テレビ朝日報道局原発担当に対し、厳しく抗議します。

2019年4月4日